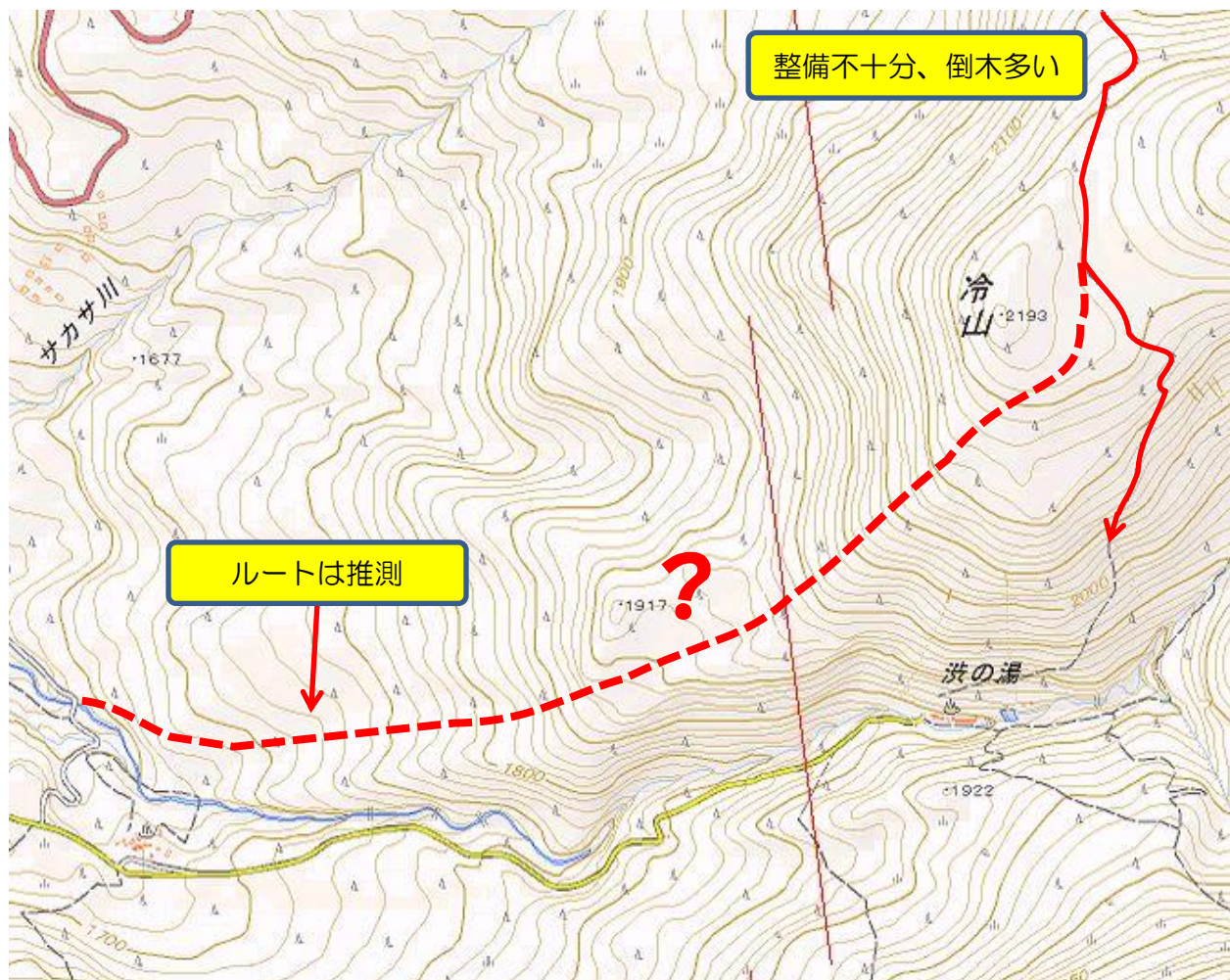


冷山道迷い(2013年9月)

登山道から外れ、道の痕跡のない場所を突き進んだ。平常心を取り戻したとき、偶然、遠くに車の音を聞き道路に出ることができた。



解説

昭文社の地図をみると、元々「整備不十分、倒木多い」と記載されている。道に迷った方は、「ルートについて事前に情報を得ず、地形等も把握していなかった。」
「マーキング(赤テープや印)があったため正規の登山道と思い込んだ。」
「下山後のバスまでの時間がギリギリだった。」と原因を分析されている。また、「疑問を感じたが、マーキングがあるから大丈夫と信じて突き進み、あまり時間に余裕がないからと引き返さなかった。迷ったときの1番最悪のパターン、沢沿いを下っていった。」と反省されている。

道が不鮮明のときは、つつい赤テープを目印に進んでしまう傾向にある。もちろん、正しい時もあるが、目印が急になくなったり、気づいた時には、完全に道がなくなり道迷いに陥ることもある。完全に道に迷ったときには、「来た道に戻る以外に方法はない。」と念をおしてもらいたい。完全に道に迷ったときで、スマホを持っている場合は、地図アプリが役に立つ。地図アプリが現在位置を教えてくれるのは、本当にありがたい。